



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

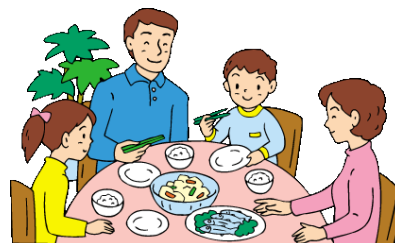
令和8年3月19日
長崎市立西北小学校
文責：校長 江原芳樹
R7年度 第8号

3月18日（水）は、卒業証書授与式でした。雨が心配されましたが、卒業生を見送るときには雨があがり、天気も門出を祝福してくれました。卒業生はみな晴れ晴れとした表情で、西北小学校を巣立っていきました。

卒業の時期になると、中庭の保健室窓際の杏の花が花を開き始めます。桜は間に合わないのですが、2本の杏の木が、卒業生を穏やかに見守ってくれるのです。

杏は色合いなど桜に似ていますが、その形状はとても梅の花に似ています。同じバラ科なので、似ているのは当然ですが、萼（がく）が反り返り、一つの節から複数の花が咲くのが特徴です。ですから、蕾がついている枝の様子は、梅や桜とは異なります。蕾は濃いピンクなのに、花が開くと白に近い淡いピンク色になることから、花言葉は、「慎み深さ」があるのだとか。

来週は修了式です。今の学年が終わり、次のステージに向けてどの子も歩みを進めていくことになります。この一年の頑張りを確認し、新たな自分づくりに挑戦してほしいと思っています。



第66回卒業証書授与式

95名の卒業生が晴れの門出を迎えました。ここでは、校長の式辞の一部、育友会会長の祝辞の一部を抜粋し、卒業生への想いを紹介したいと思います。

【校長式辞より抜粋】

卒業生のみなさん、これからあなたが歩む道は、あなただけしか歩けない誰も通ったことのない道です。誰かが準備してくれたものではなく、自らの力で道を切り拓き、歩いていく道です。しかし、どこに向かえばいいのか、どう向かえばよいのか悩むこともあるでしょう。そんなときは、お父さんお母さんに、先生にそして友達に力を借りてください。決して一人で苦しみ、一人で悩み、一人で解決しようとしなないことです。周りに救いを求めることは、生きることに必要なことです。

【育友会会長祝辞より抜粋】

行事が縮小されても、声を出せなくても、思いっきり触れ合えなくても、みなさんは工夫し、前向きに、できることを精一杯楽しんでいました。

タブレットを使った新しい学び、黙食でも目で会話するような温かい時間、運動会で声援が出せない代わりに、全力の走りで気持ちを伝えたこと、修学旅行や宿泊学習が再開された時のあのはじけるような笑顔。コロナ渦で始まった学年だからこそ、その一つ一つがみなさんの6年間で輝かせてくれました。（中略）

新しい出会い、新しい挑戦、そして新しい自分との出会い。どうか、この6年間で培った「乗り越える力」と「思いやる心」を胸に、自分の道を歩んでください。

入学当時はまだコロナ感染防止のため、多くの制限の中で学校生活が始まった6年生です。それだけに、卒業式で見た「門出の言葉」を堂々と言う姿には大きな成長を感じることができました。

中学校という新しいステージでさらに活躍することを心から願っています。



ご理解いただきたいこと

「カリキュラム・オーバーロード」という言葉を聞いたことがありますか？

学校では学習指導要領に示された各教科の内容を指導するのに要する時数の基礎となる「標準授業時数」に準じて、時間割等を計画的に実施しています。この「標準授業時数」は少なくともダメですが、多すぎてもダメとされています。ところが、学校現場では、感染症等による臨時的な学校・学年・学級閉鎖等が想定されるため、時数に余裕をもたせているのが現状です。さらに、運動会や学習発表会を実施すれば、そのための練習や準備のために時間を要することになり、各教科の内容を指導するのに必要な時数だけでは、現実的ではなく、これまで余剰時数を確保してきました。

しかし、こうした現状（標準授業時数が過剰になっている）が、子供たちの負担を大きくしていて、さらに職員の多忙さも解消されないことにつながっていると言われているのです。これが「カリキュラム・オーバーロード」です。

2030年の次期学習指導要領に向け、学校現場では、授業時数等の工夫が求められています。単に授業時数を標準時間に合わせるよう減らしていくということではありません。本当に必要とする時間を再度検討し、精選していく必要があるということです。

学校教育の質を下げることなく、子供や職員にとって過度な負担とならない適正な授業時数について、令和8年度からは少なからず取り組んでいくことになります。

例年とは違う日程を組むことも出てくるかと思いますが、ご理解のほどよろしくお願いします。

《校長散歩道 No.27》

小学校6年間は、子供の心身の成長がもっとも大きな期間と言われています。特に変化するのが時間認識、人間関係、メタ認知だそうです。「時間認識」では過去や未来を考える力が高まり、「人間関係」では人との関わりを広い視野で捉えることができるようになり、「メタ認知」では自分を客観的にモニターできるようになるのです。人として賢くなりますが、それだけに悩みも深くなっていくのがこの時期です。

この中で特にかかわりが難しいのは、「人間関係」でしょう。対人関係スキルは、放っておいても勝手に成熟するものではないからです。特に、生活経験が以前よりも薄くなっているといわれる現在の子供たちには、対人関係スキルは大人が教えるべきものになったと言われています。

確かに子供たちの対人関係は「一方向が原因」のトラブルが多くなった印象があります。私たち大人は、子供の声に耳を傾けながらも、それを鵜呑みにしたり、先回りして対応したりするのではなく、子供の求めていることを汲み取り、受け止めていく「応答性」が必要になります。そのためにも私たち大人も狭い視野にとどまることなく、広い視野をもちたいものです。